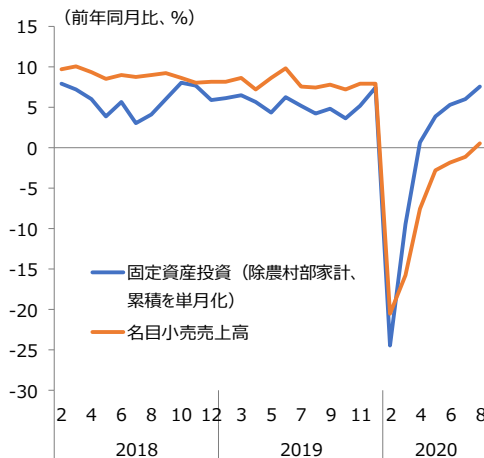


中国

小売・投資（2020年8月） 民間消費と製造業投資がともに改善

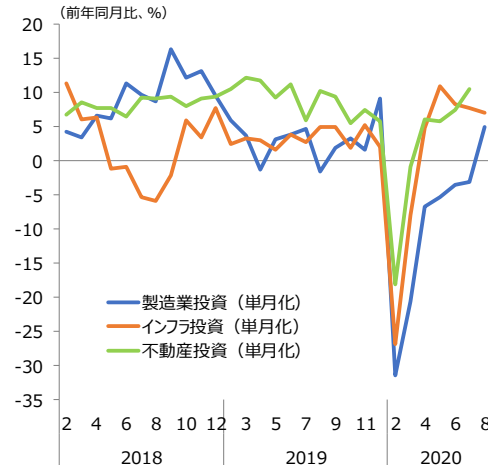
政策・経済研究センター
橋本琢磨
03-6858-2717

1 名目小売売上と投資



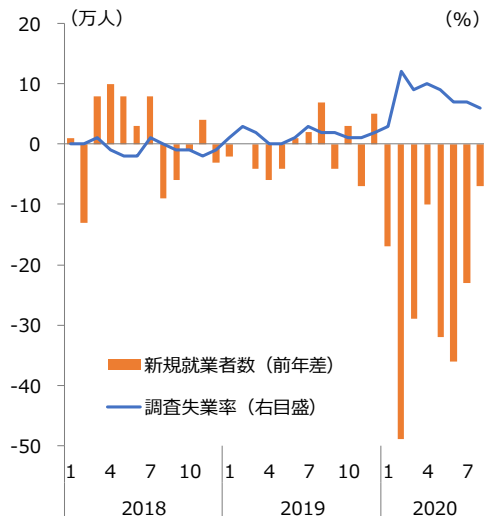
出所：Windより三菱総合研究所作成

2 固定資産投資の内訳



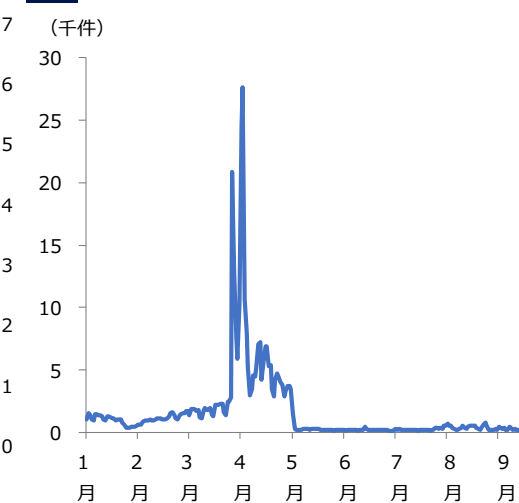
出所：Windより三菱総合研究所作成

3 雇用統計



出所：Windより三菱総合研究所作成

4 百度「失業保険受取条件」検索件数



出所：Windより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 20年8月の名目小売売上高は前年同月比+0.5%となり、今年初めてのプラスに転じた（図表1）。
- 固定資産投資（年初からの累積）は同▲0.3%と前月（同▲1.6%）から引き続きマイナスとなった。ただし、単月での投資額を推計すると（図表1）、8月は同+7.6%と18年10月以来の高い伸びとなっている。
- 固定資産投資のセクター別内訳を単月化してみると、製造業投資が同+5.0%と今年初めてのプラスとなった（図表2）。インフラ投資は同+7.0%と前月（同+7.7%）から引き続き高い伸びとなっている。

基調判断と今後の流れ

- これまでの中国経済の回復は、インフラ投資と不動産（特に住宅）投資がけん引してきたところが大きく、一方で内需の回復の遅れが懸念されていた。しかし、今回の結果は、民間消費と製造業投資の内需がともに回復傾向を示した点で評価できる内容となった。
- 消費動向に関しては、8月の新車販売台数も218.6万台と、前年同月比+11.6%の高い伸びとなっており好調だ。政府による販売支援策によりEVなどの新エネルギー車（NEV）の販売が伸びているほか、トラックなど商用車が8月同+41.6%の伸びとなるなど、4月から前年同月比で高い伸びが続いている。
- 雇用統計も足もとで改善傾向をみせており、消費動向への追い風となっている。8月の全国都市部調査失業率は5.6%と、前月5.7%から0.1pt低下した（図表3）。一方、1-8月の都市部の新規就業者数は781万人と前年同期を203万人下回るも、8月の単月でみると新規就業者数の前年差での減少幅が縮小している（7月▲23万人→8月▲7万人）。
- また、高頻度データとして、Baidu Search Indexのうち「失業保険受取条件」に関する検索件数をみると、4月に急増したものの5月以降は大きく減少しており、失業者が今後増えるような予兆は今のところみられない（図表4）。
- 設備投資や消費など、民間部門の自律的な成長に向けた好循環がみられるか、注目される。